

国際観光の将来予測及び外国人観光客の 訪日促進策

Trend of international tourism and policy for
promoting inbound tourism to Japan

2004.5.21

研究員 田中 賢二
Researcher Kenji Tanaka

(C)Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

国際観光の意義

- 1 . 楽しみ、自己啓発
- 2 . お互いの住民、地域、国に対するイメージ向上
- 3 . 魅力ある地域、国の形成への契機
- 4 . 経済効果
 - 幅広い産業に波及、地域経済の活性化、対内投資の誘引



- 5 . 国際相互理解の増進 → 文化的安全保障
→ 国際平和

国際観光の意義

目標:「2010年に訪日外国人旅行者数1,000万人」

研究の目的及び本日の発表内容

研究の目的:

外国人観光客の獲得競争に勝ち抜くために役立つ基礎資料を提供すること

競争に勝ち抜くために、まず行うべきこと:

→ 今、何が起きているのかをよく知ること

その上で、国際観光の将来予測、訪日観光促進策の構築を進めていくべき

研究の目的及び本日の発表内容

研究の目的:

外国人観光客の獲得競争に勝ち抜くために役立つ基礎資料を提供すること

競争に勝ち抜くために、まず行うべきこと:

→ 今、何が起きているのかをよく知ること

→ 本日は、この部分について調査・分析した成果を報告

研究の目的及び発表内容

日本の国際観光をめぐる現状

同じ事が外国でも起こっている、今後起こるかもしれない。

日本人の外国旅行の様相

「顧客」たる外国人の外国旅行の様相

訪日観光を阻害する要因

日本の現状

アンバランスな日本の国際交流

→ 到着 日本を訪れる外国人旅行者数: 約524万人

出発 → 日本人の外国旅行者数: 約1,652万人

外国人旅行者到着数の世界ランキングで第33位

アジアランキングで見ても、中国、香港、マレーシア、タイ、シンガポール、マカオ、韓国に次ぐ第8位

日本は世界の中で人気がなく、開かれていない国である。

(世界観光機関(WTO)の2002年データより)

(C)Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

日本の現状

アンバランスな日本の国際交流

→ 到着 日本を訪れる外国人旅行者数：約524万人

出発 → 日本人の外国旅行者数： 約1,652万人

外国人旅行者到着数の世界ランキングで第33位

アジアランキングで見ても、中国、香港、マレーシア、タイ、シンガポール、マカオ、韓国に次ぐ第8位

日本は世界の中で人気がなく、開かれていない国である。

(世界観光機関(WTO)の2002年データより)

(C) Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

「日本は人気のない国」であるか？

1. 競争条件は同じであるか？

- そもそも「外国旅行」とは？
- アジアでの「外国旅行」はどうなっているか？

2. 外国旅行の目的は考慮しなくていいのか？

3. 本当に日本は人気がないのか？

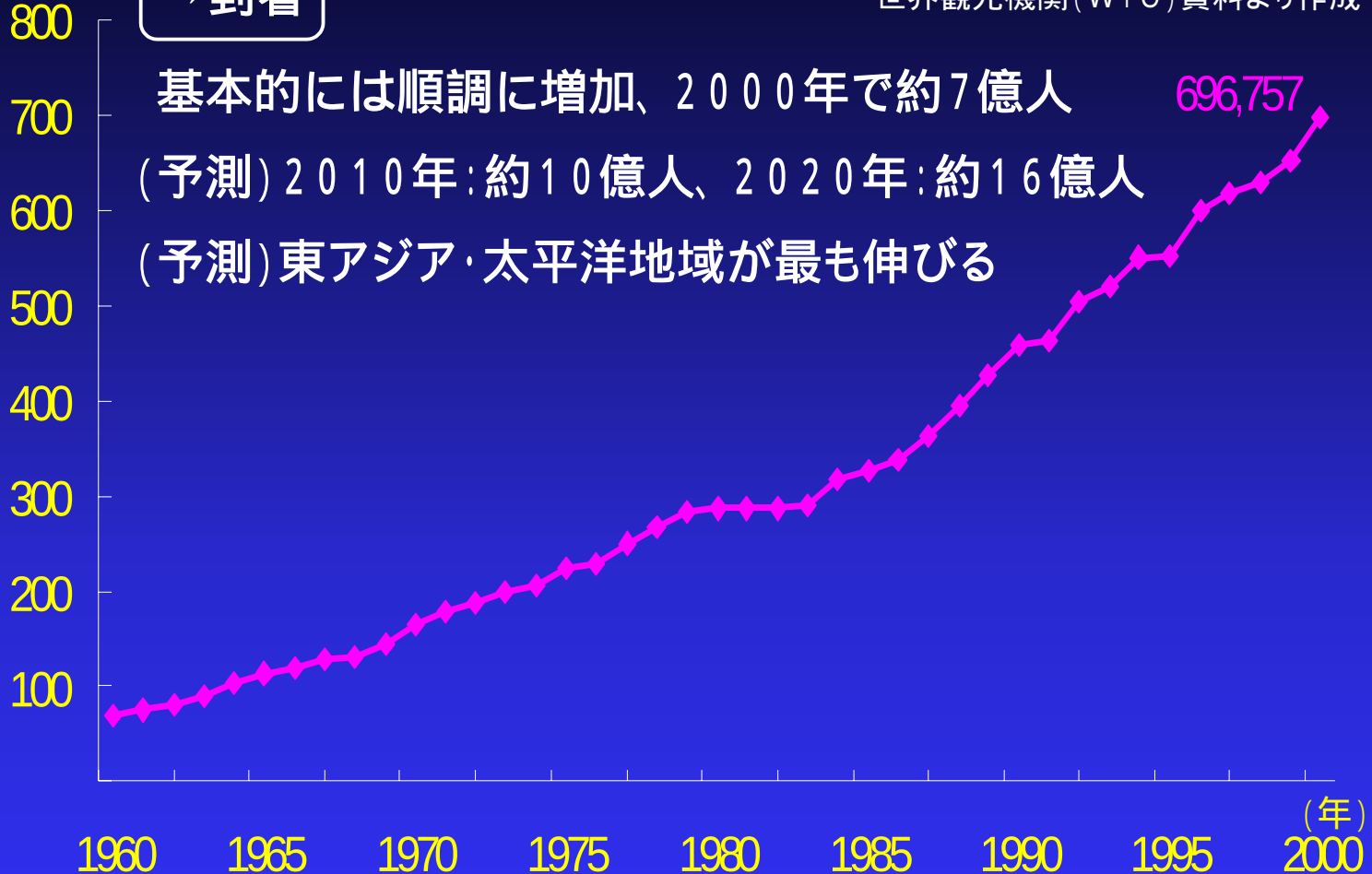
4. 何が問題か？

世界全体の外国旅行者数の推移

(千人)

→ 到着

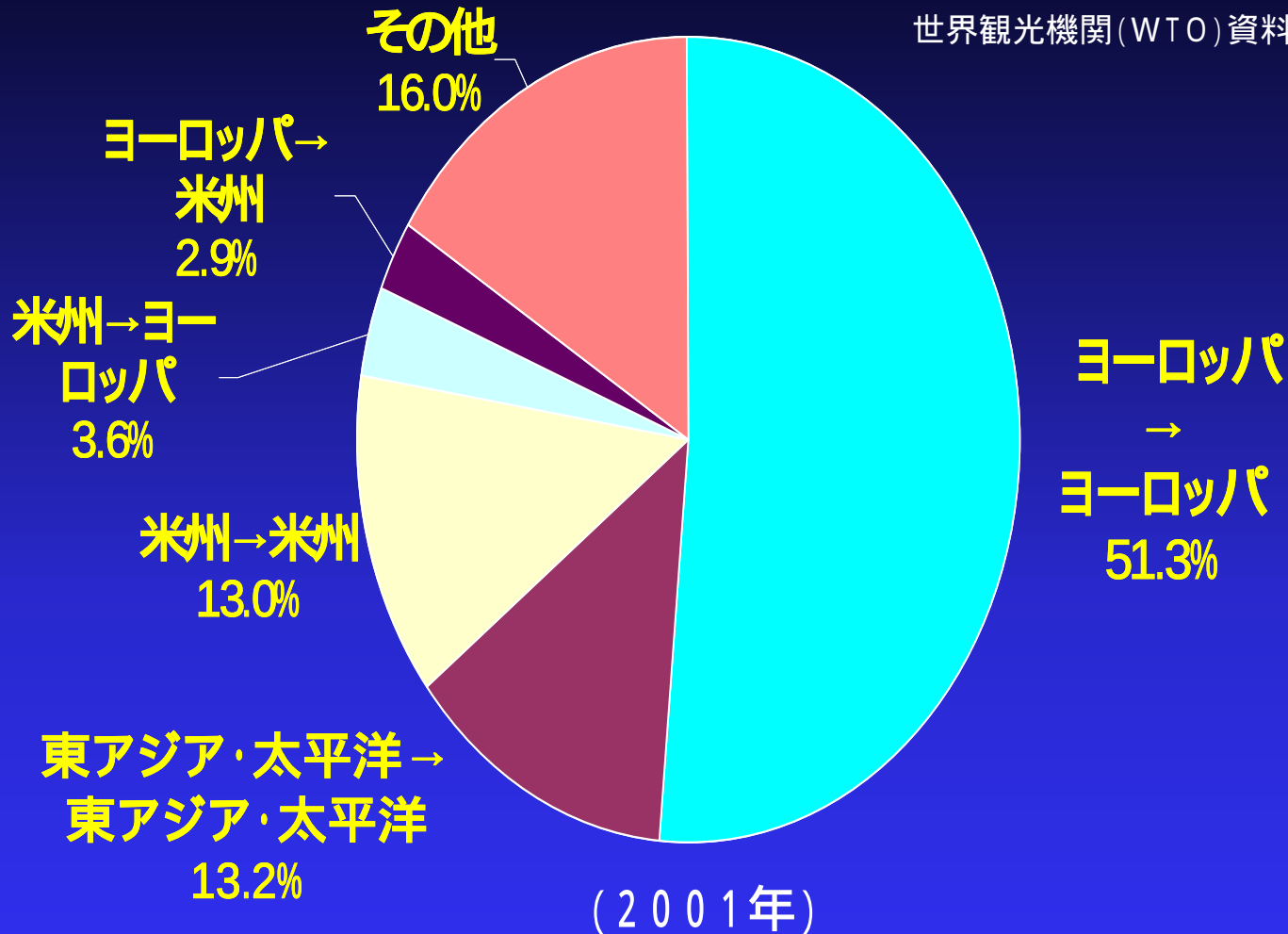
世界観光機関(WTO)資料より作成



(C) Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

外国旅行者の地域間流動

世界観光機関(WTO)資料より作成



(C) Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

外国旅行者の地域間流動

世界観光機関(WTO)資料より作成

大部分は、限定された範囲で行われている

ヨーロッパ
→
ヨーロッパ
51.3%

「外国旅行」の約半分は、ヨーロッパの方が他のヨーロッパの国に行くこと

その他
16.0%

ヨーロッパ→
米州
2.9%

米州→ヨー
ロッパ
3.6%

米州→米州
13.0%

東アジア・太平洋→
東アジア・太平洋
13.2%

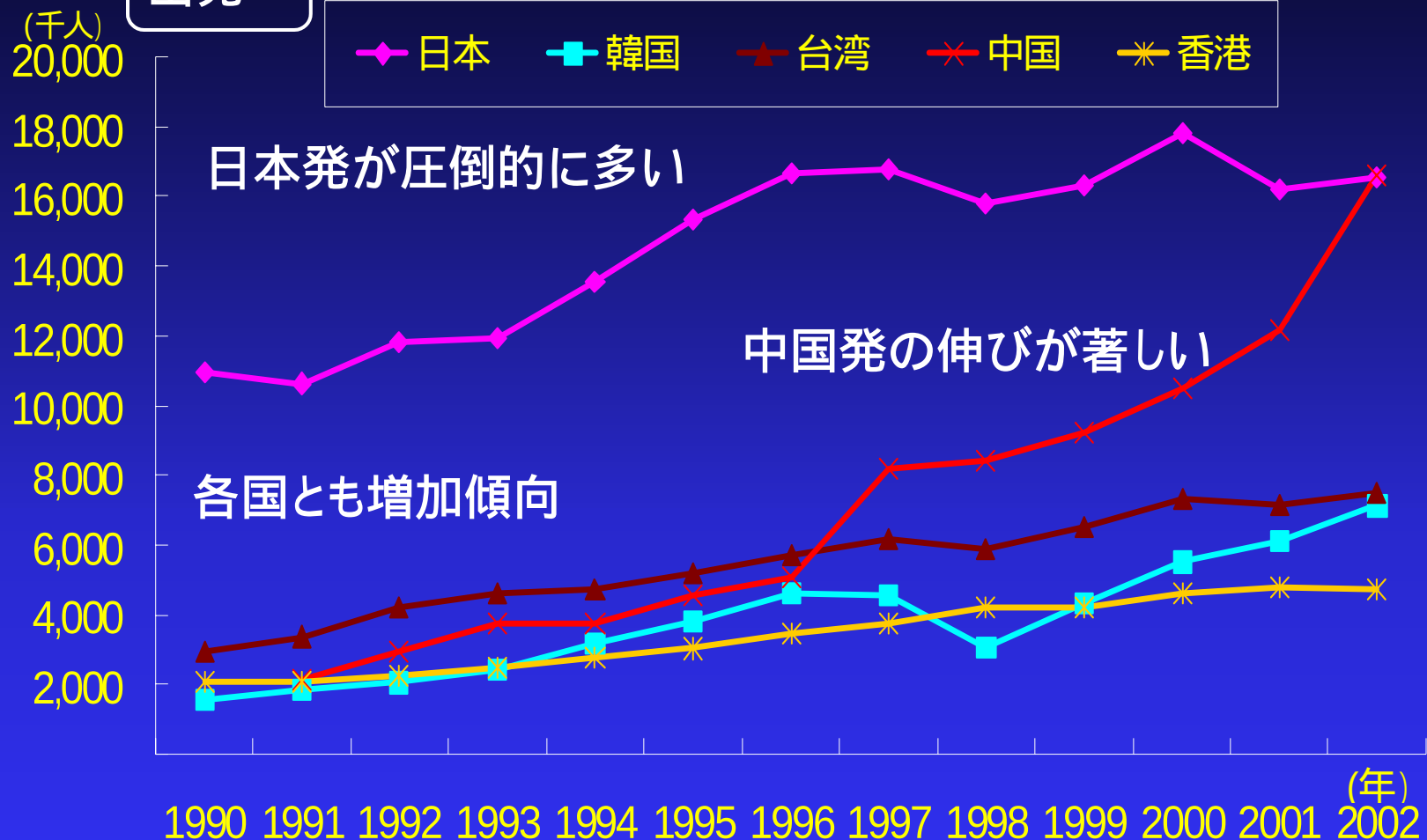
(2001年)

(C) Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

アジア各国の外国旅行をした方の数

各国政府観光当局資料より作成

出発→



(C) Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

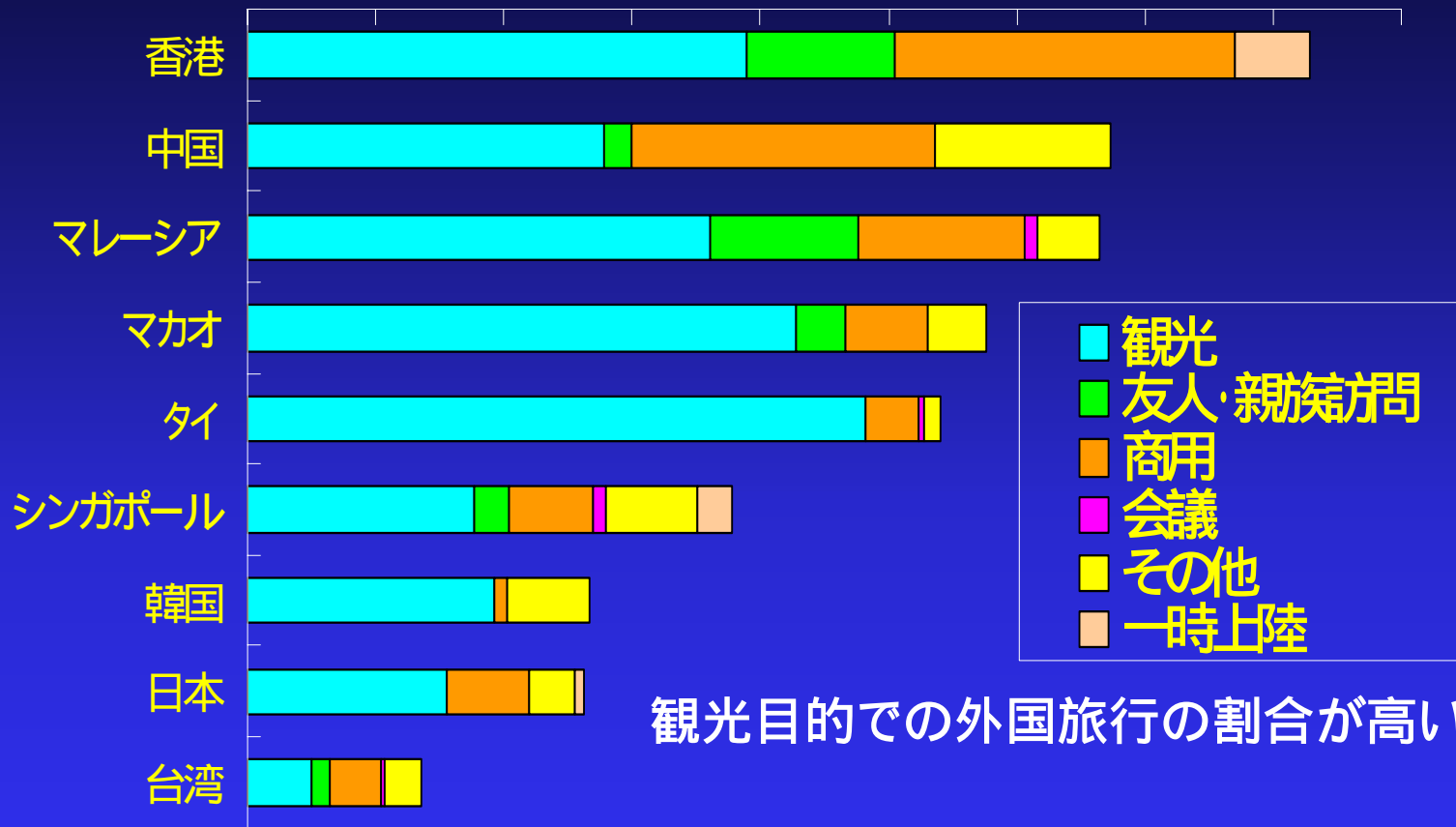
外国人旅行者到着数を目的別に積上げ

各国政府観光当局資料より作成

→ 到着

(千人)

2,000 4,000 6,000 8,000 10,000 12,000 14,000 16,000 18,000



観光目的での外国旅行の割合が高い

(2002年)

(C) Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

観光目的に限定

各国政府観光当局資料より作成

(千人)

→ 到着

2,000

4,000

6,000

8,000

10,000

12,000



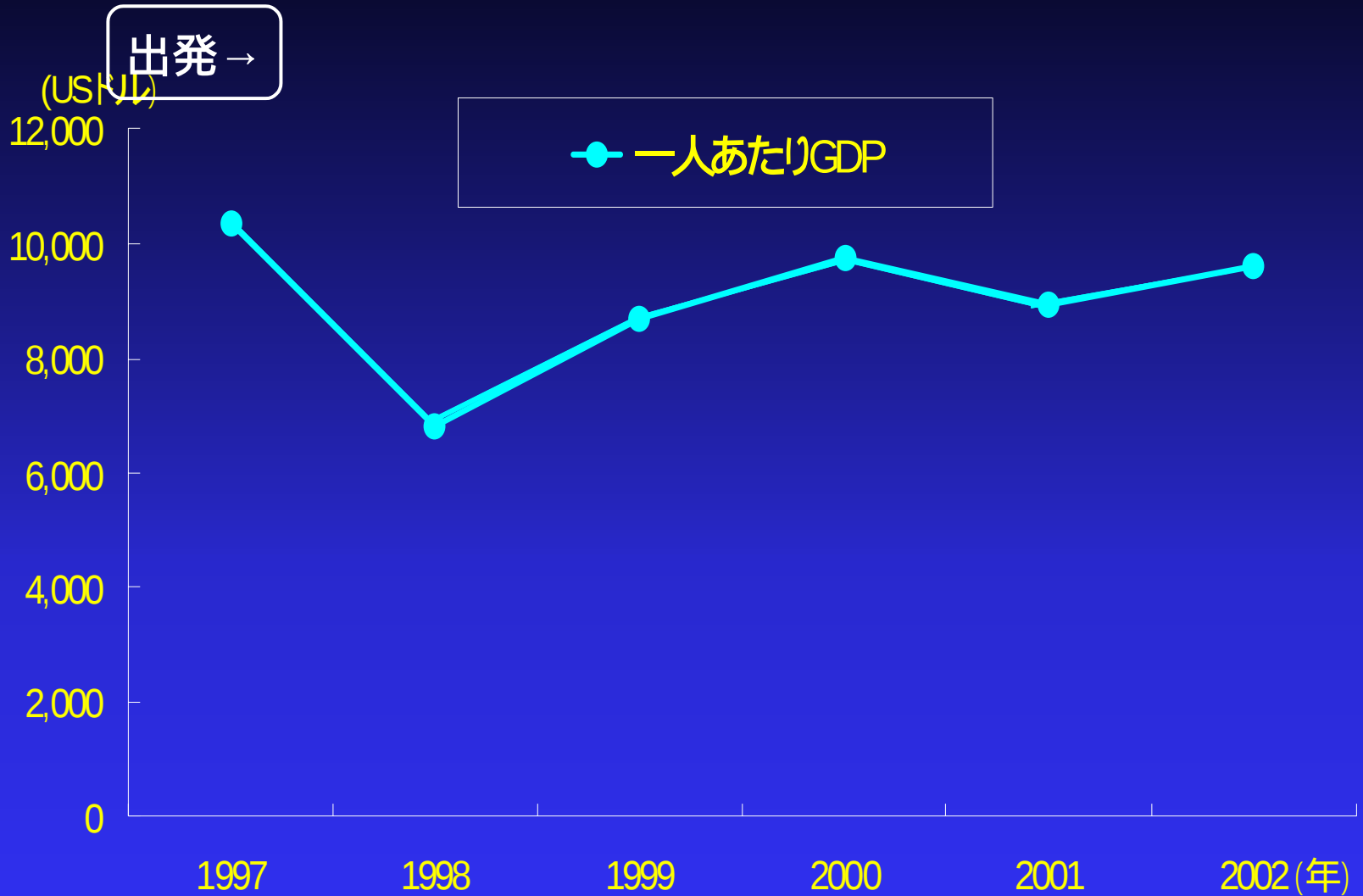
タイが最も多い

(2002年)

(C)Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

GDPと韓国発外国旅行者数

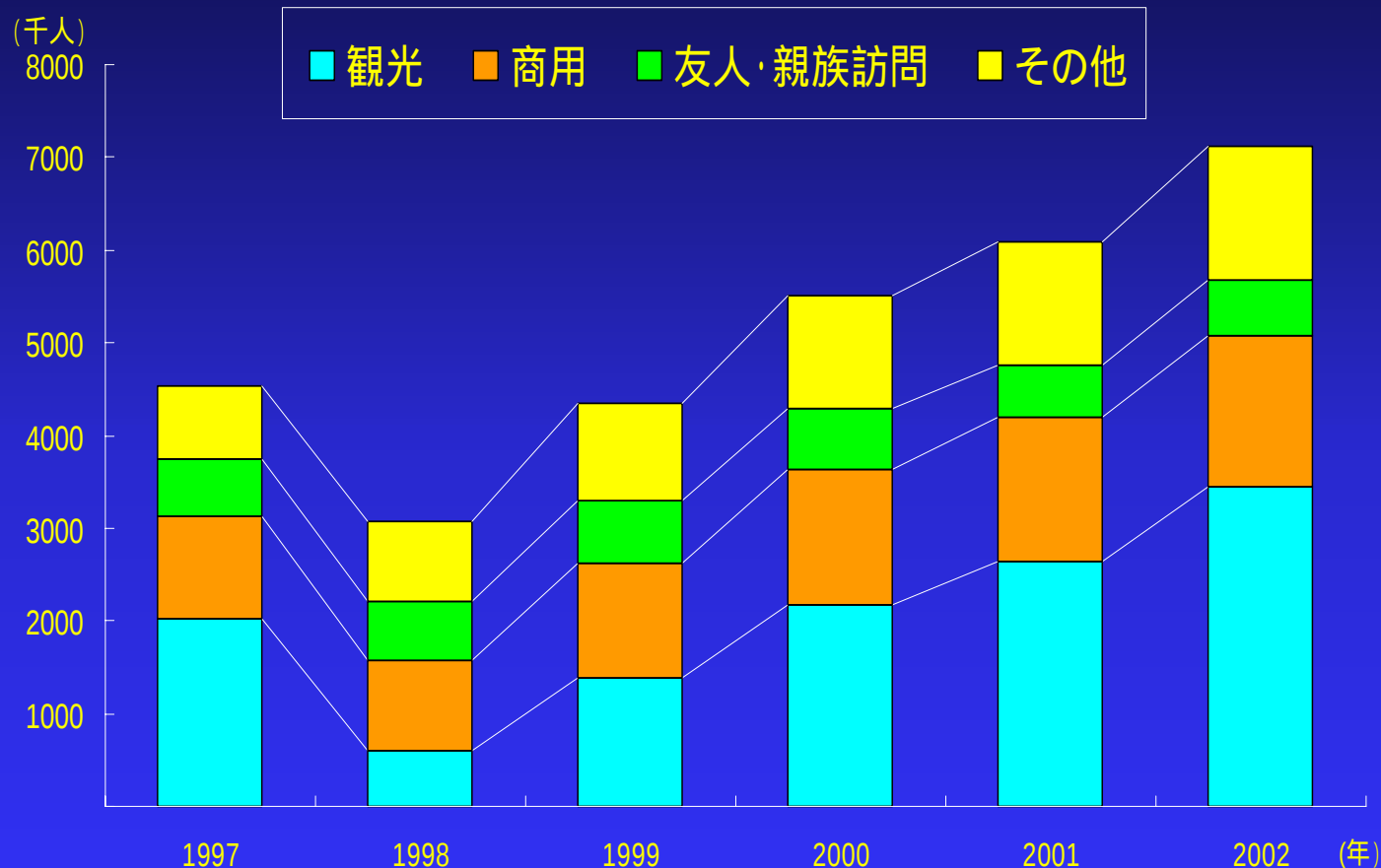
韓国観光公社資料より作成



GDPと韓国発外国旅行者数

出発 →

韓国観光公社資料より作成



(C) Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

GDPと韓国発外国旅行者数

国によって観光客の占める割合に大きな差



「観光を目的とした外国旅行」という需要は変動大
(経済、テロ、伝染病等の影響を受けやすい)



外国旅行の目的をできる限り考慮することが必要

近隣国の外国観光目的地ランキング

出発 →

各国政府観光当局資料より作成

	韓国発		台湾発		香港発	
順位	国名	人数	国名	人数	国名	人数
1	中国	867,522	香港	1,185,225	マカオ	3,673,035
2	日本	588,947	日本	769,074	タイ	479,712
3	タイ	500,654	タイ	634,338	日本	255,294
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

台湾発の香港については、2001年のデータ。

(アジア内、2002年)

香港発中国行きの旅行者については、目的別のデータがないため除外している。

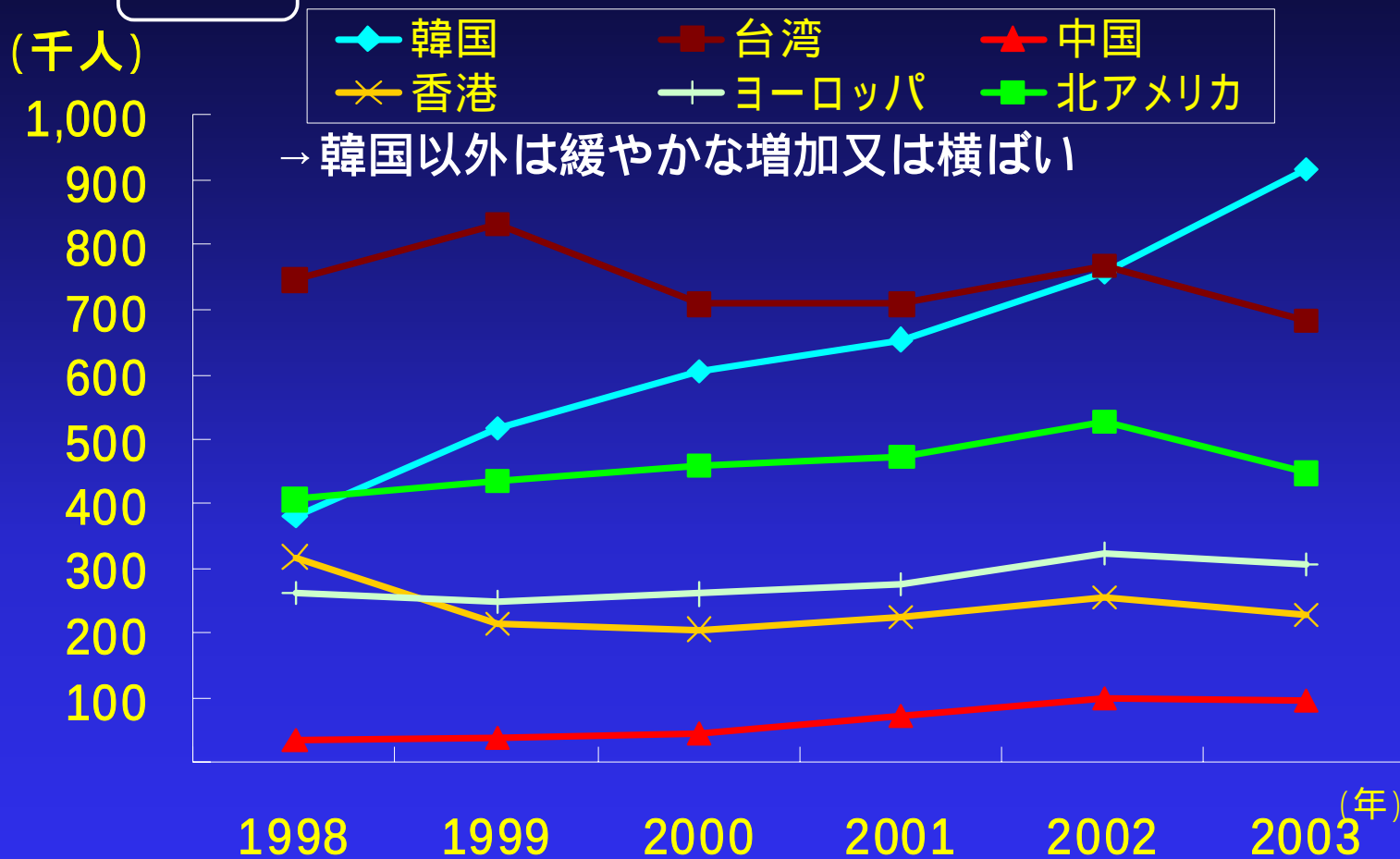
→ 近隣国では日本の人気が高い。

(C)Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

訪日外国人観光客数の推移

国際観光振興機構 (JNTO) 資料より作成

→ 到着

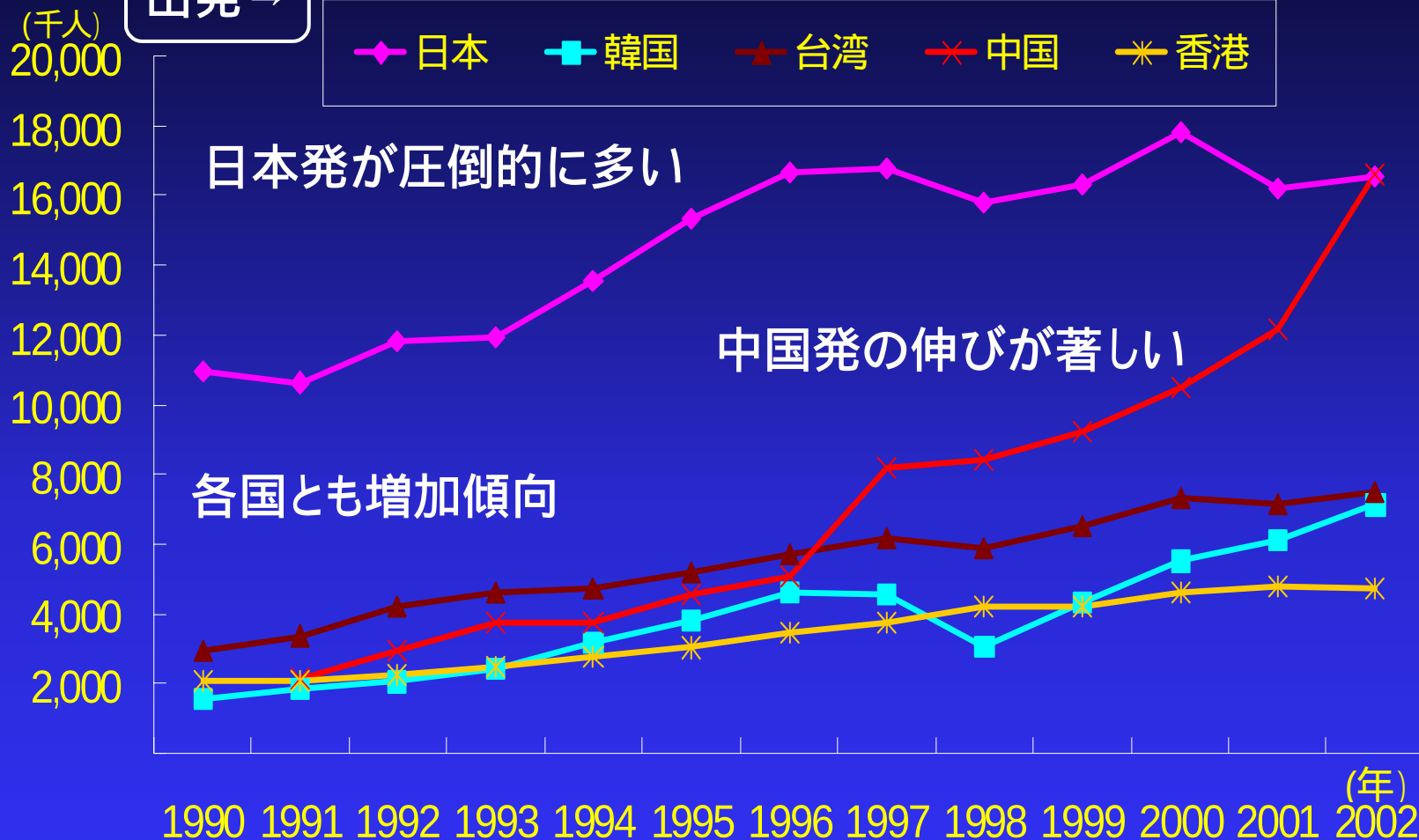


(C) Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

アジア各国の外国旅行をした方の数

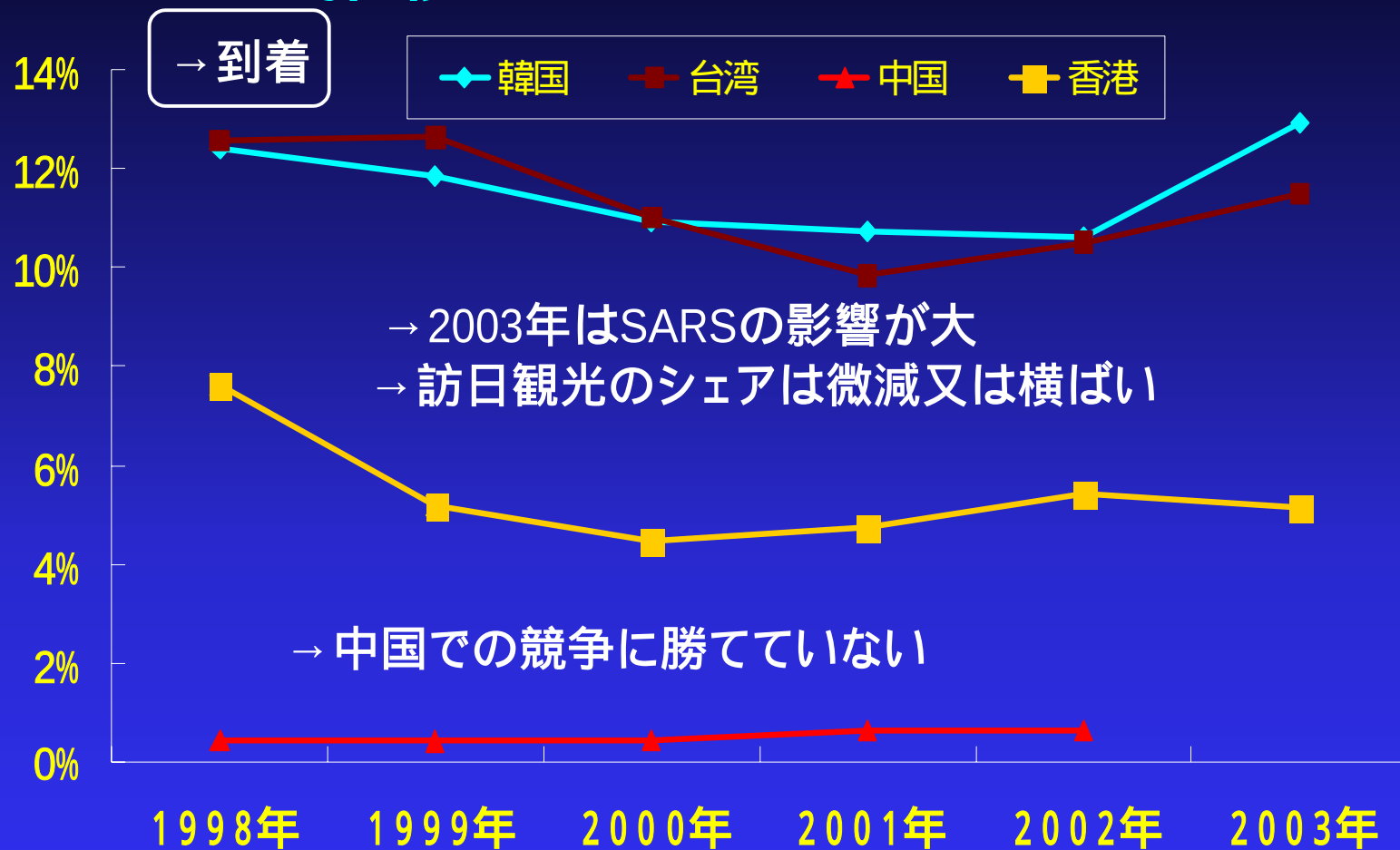
各国政府観光当局資料より作成

出発 →



各国発外国旅行者に占める訪日観光客のシェアの推移

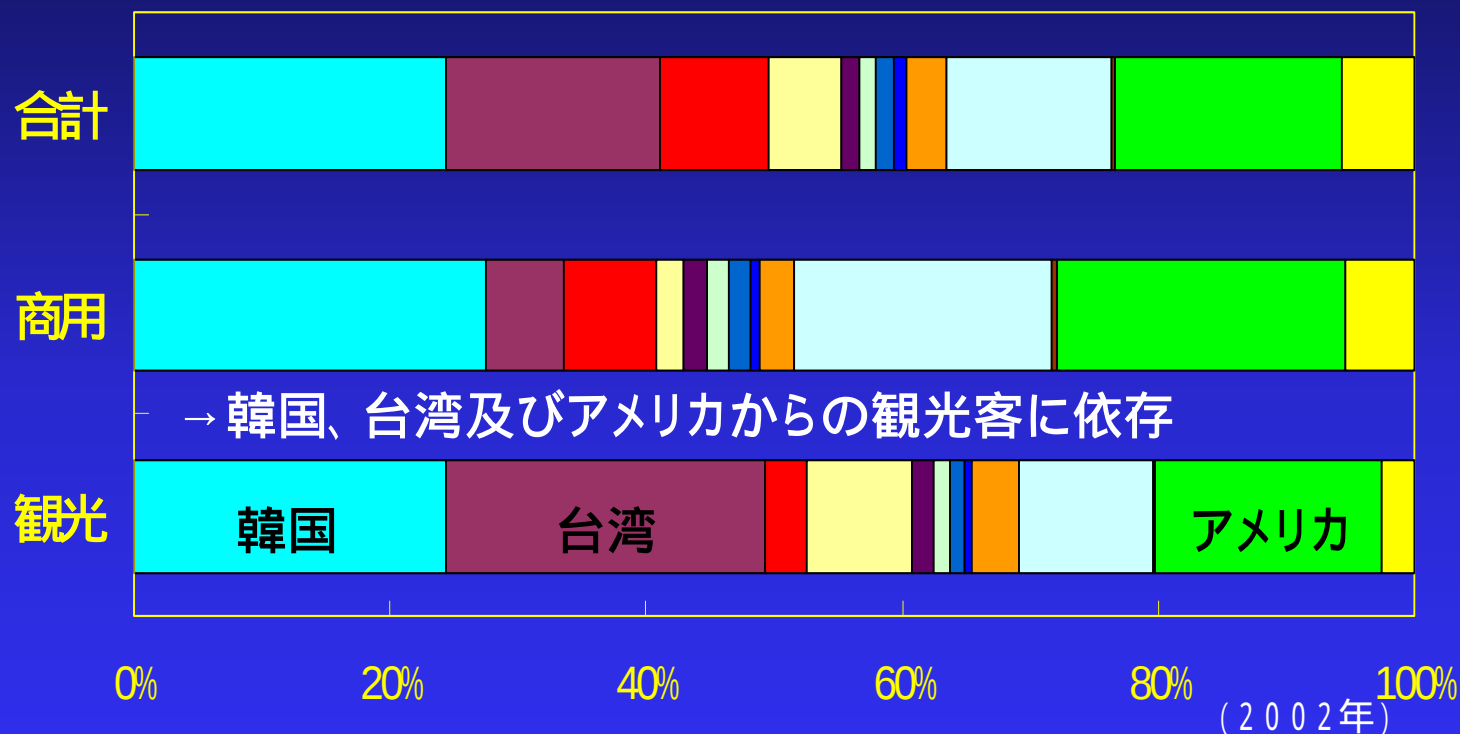
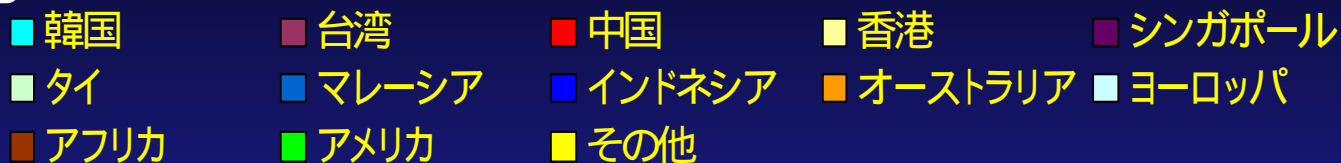
各国政府観光当局資料より作成



訪日外国人旅行者の国別内訳

→ 到着

各国政府観光当局資料より作成



日本の現状について

1. 競争条件は同じであるか？

→ 競争条件は同じではない

→ 世界ランキング、アジアランキングだけでは判断できない

2. 外国旅行の目的は考慮しなくていいのか？

→ 外国旅行の目的をできる限り考慮する必要がある

3. 本当に日本は人気がないのか？

→ 韓国、台湾、香港といった近隣国では人気がある

日本の現状について

4. 何が問題か？

- 韓国及び台湾の観光客に依存している
- 東アジア諸国での訪日観光のシェアは伸び悩み
- 諸外国の方の目的地の変化に対する戦略がない
- 近年のアジアでの国際観光客獲得競争において、勝てていない。

研究の目的及び発表内容

日本の国際観光をめぐる現状

同じ事が外国でも起こっている、今後起こるかもしれない。

日本人の外国
旅行の様相

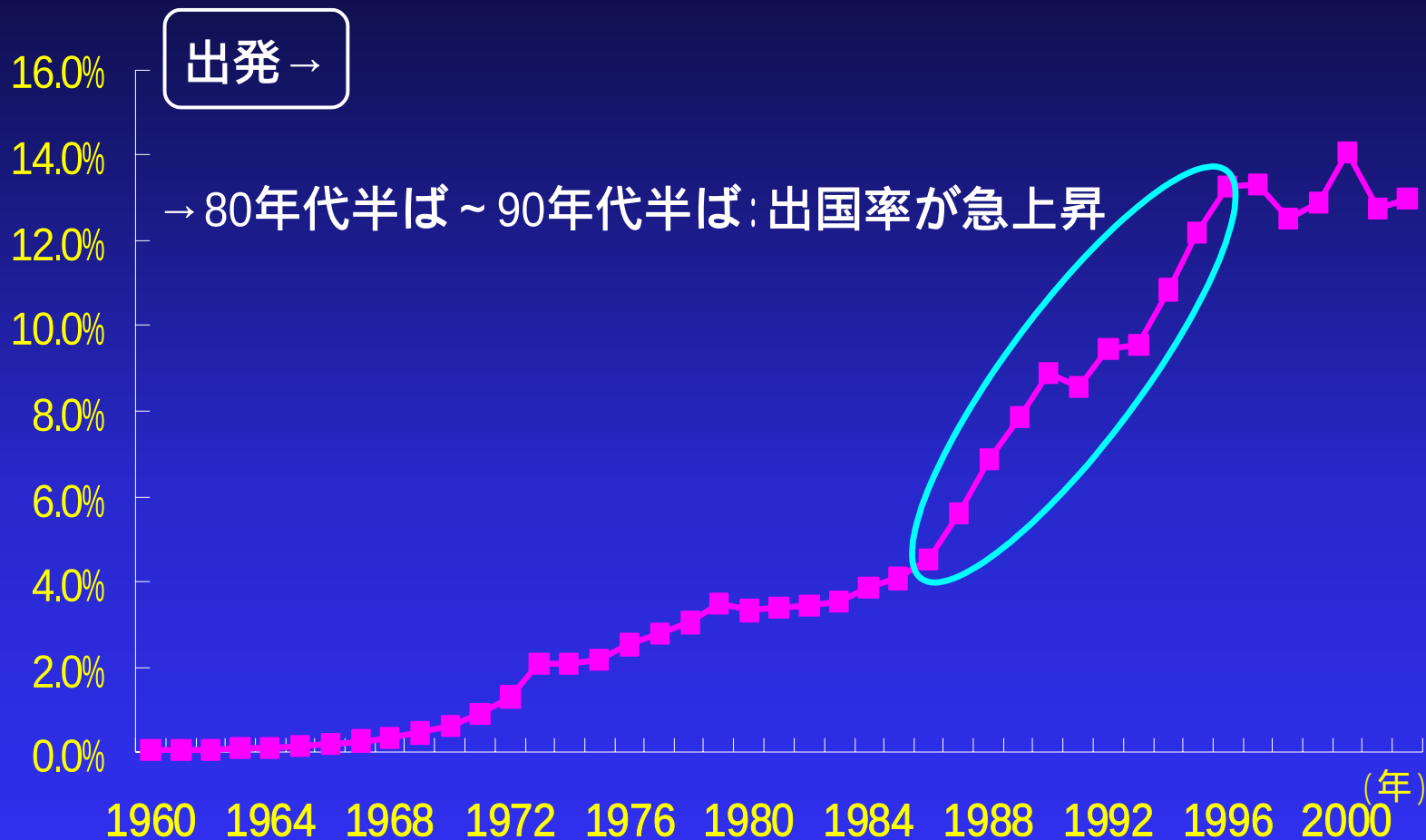
「顧客」たる外国人の外国旅行の様相

訪日観光を阻害する要因

日本人出国率の推移

国際観光振興機構 (JNTO) 資料等より作成

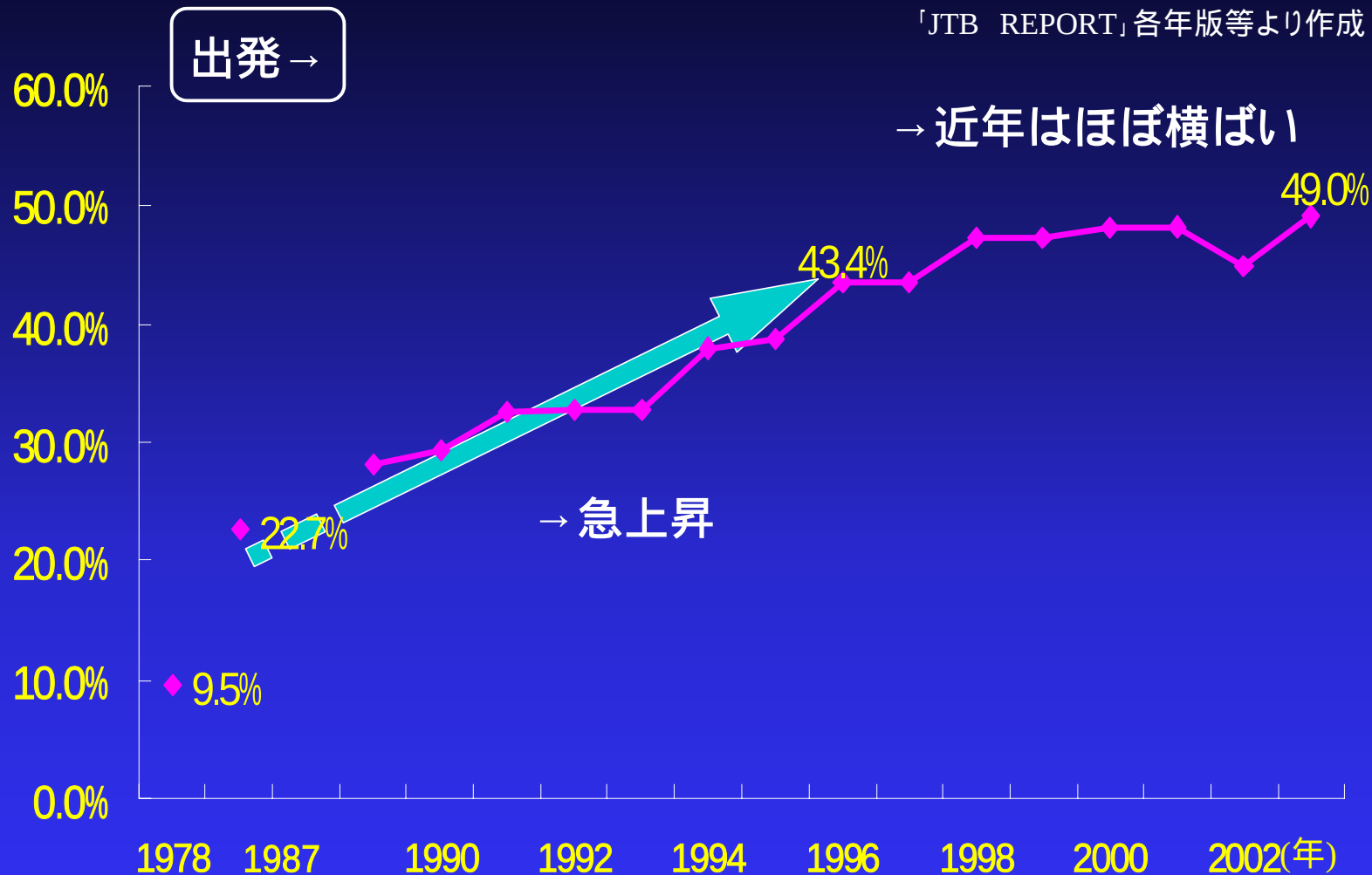
出国率: 人口に占める外国旅行者数の割合



(C) Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

外国旅行をしたことのある人の割合の推移

「JTB REPORT」各年版等より作成



(C)Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

1年間に外国旅行をする回数

「JTB REPORT」各年版より作成

出発 →



平均回数

100%

90%

80%

70%

60%

50%

40%

30%

20%

10%

0%

1.6

1.6

1.6

1.7

1.7

1.7

1.8

平均回数は徐々に増加

1年に1回の方の割合が徐々に減少

1996

1997

1998

1999

2000

2001

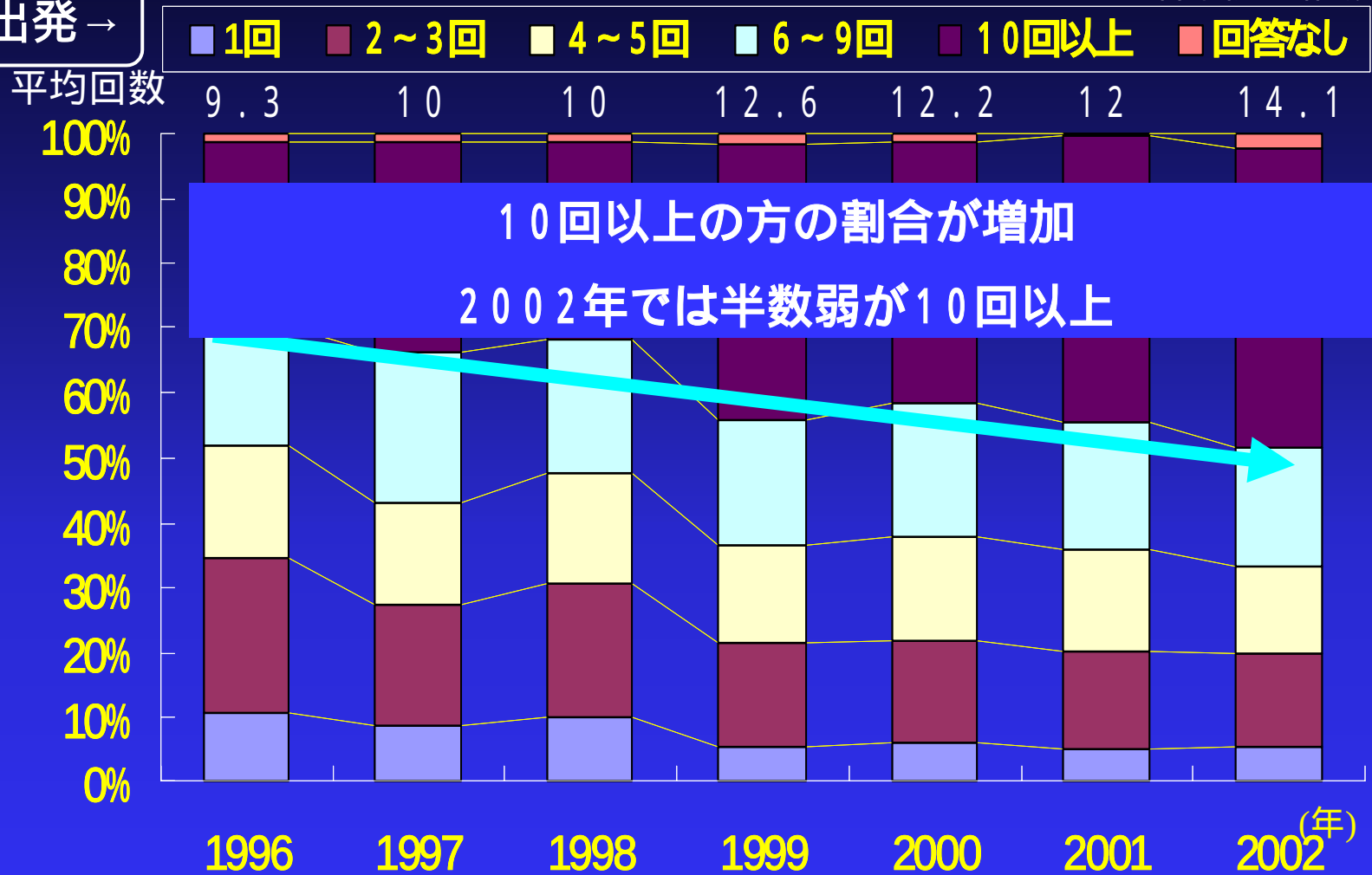
2002^(年)

(C) Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

これまでに外国旅行をした回数

「JTB REPORT」各年版より作成

出発 →



目的地別の日本人外国旅行者数の推移

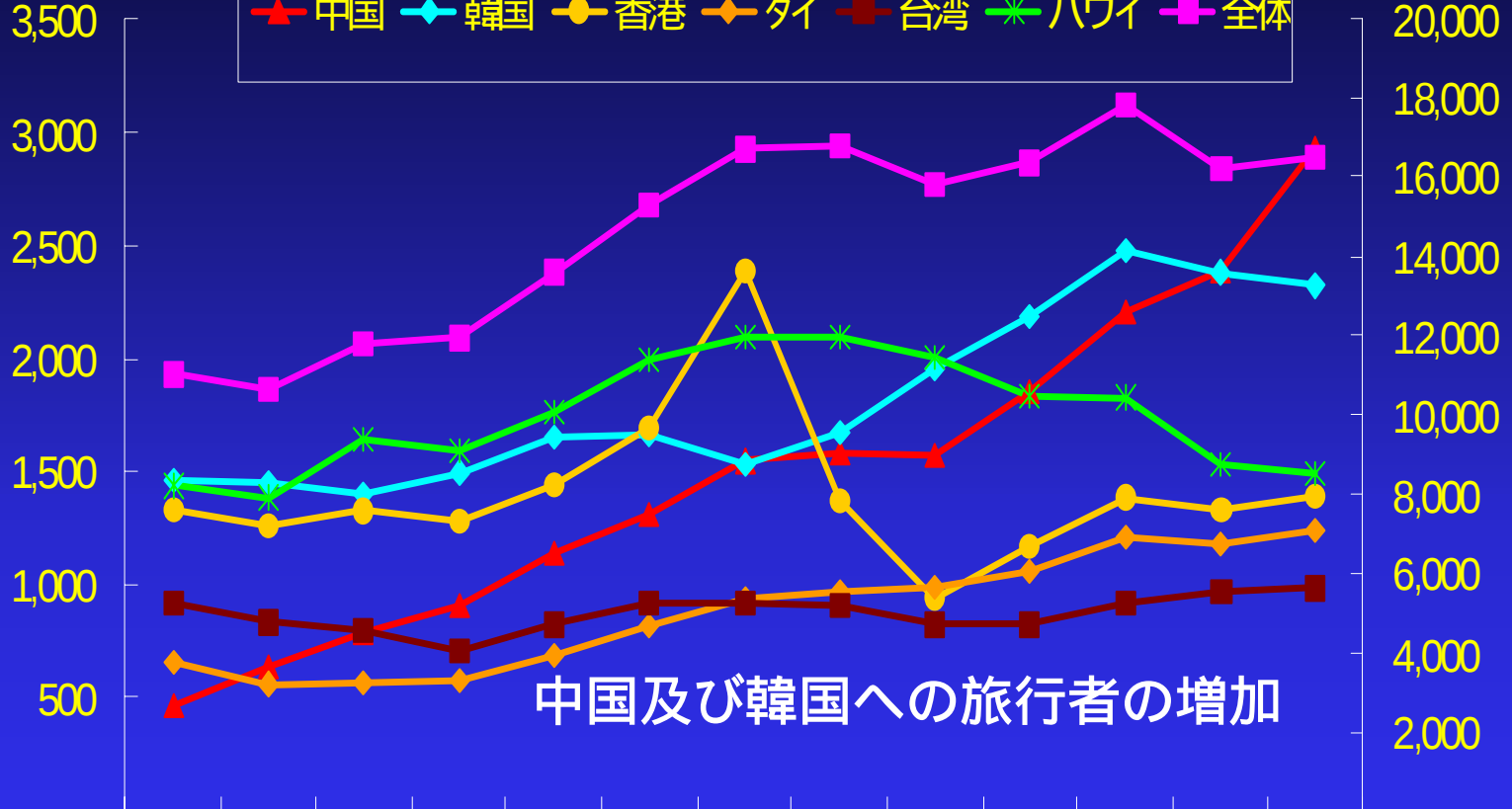
国際観光振興機構 (JNTO) 資料等より作成

出発 →

各国(千人)

全体(千人)

中国 韓国 香港 タイ 台湾 ハワイ 全体



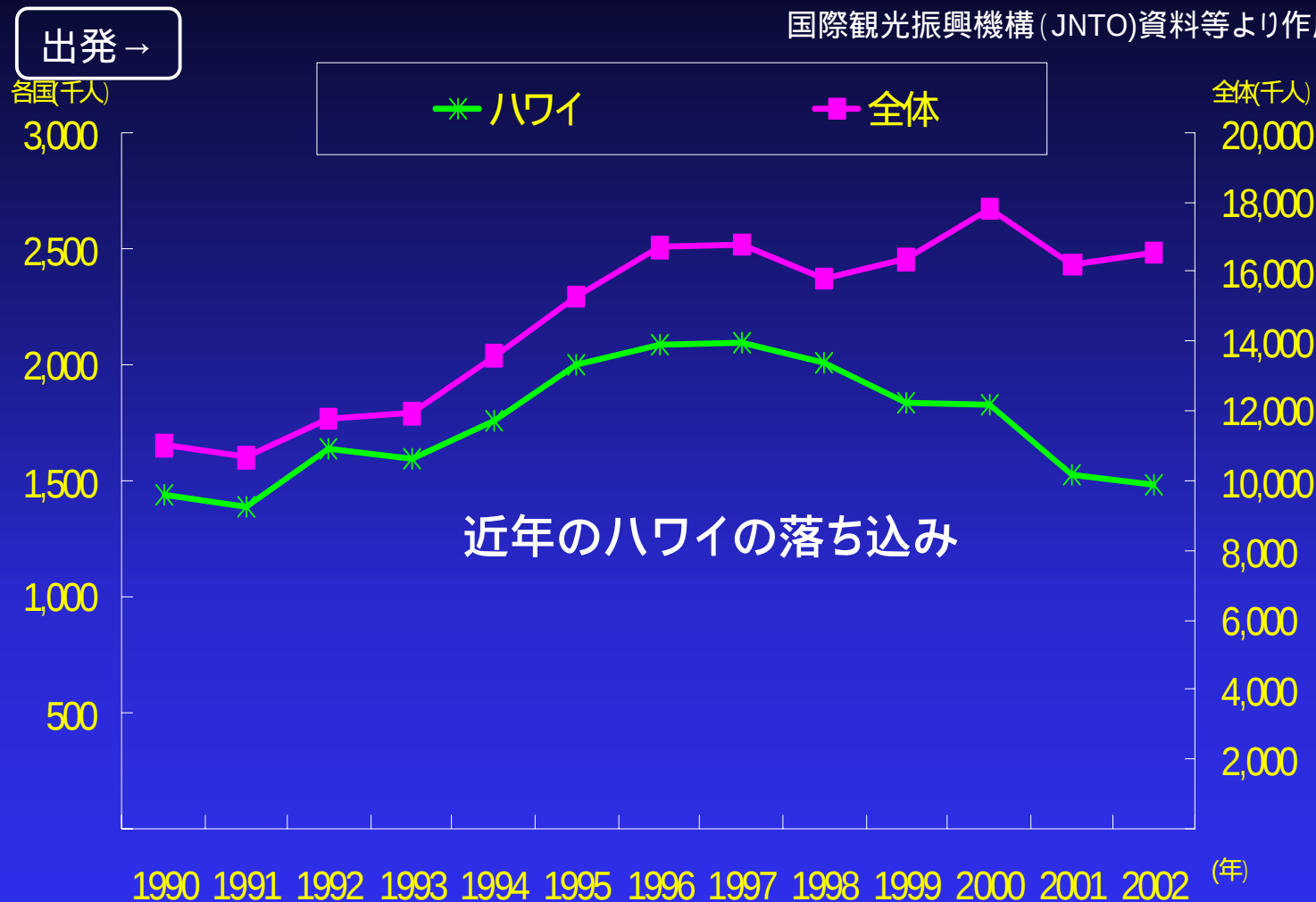
中国及び韓国への旅行者の増加

1990 1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 (年)

(C) Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

目的地別の日本人外国旅行者数の推移

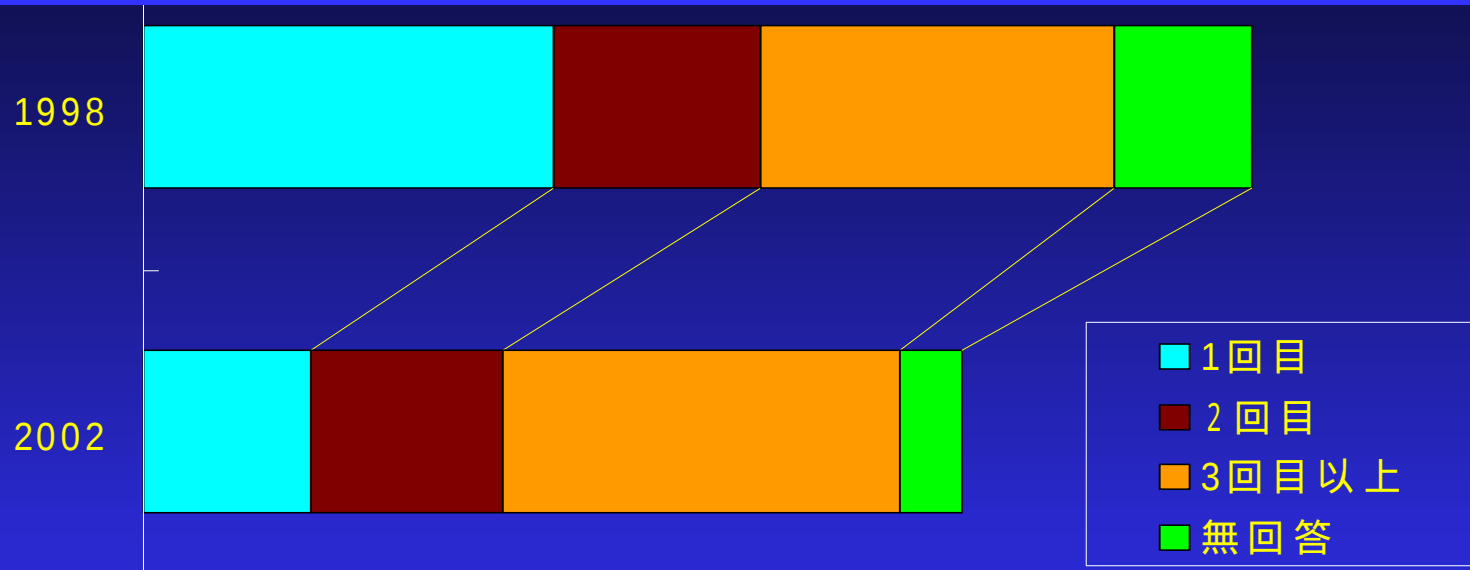
国際観光振興機構 (JNTO) 資料等より作成



日本人のハワイ旅行における変化

「JTB REPORT」各年版等より作成

ハワイを訪れる日本人の訪問回数(1998、2002)



「1回目のハワイ旅行」の減少(行ったことがある人の増加も含む。)

2回目以上の方を増やせていない

飽きられた？

1回目 → 2回目以上への移行が少ない

縮小均衡？

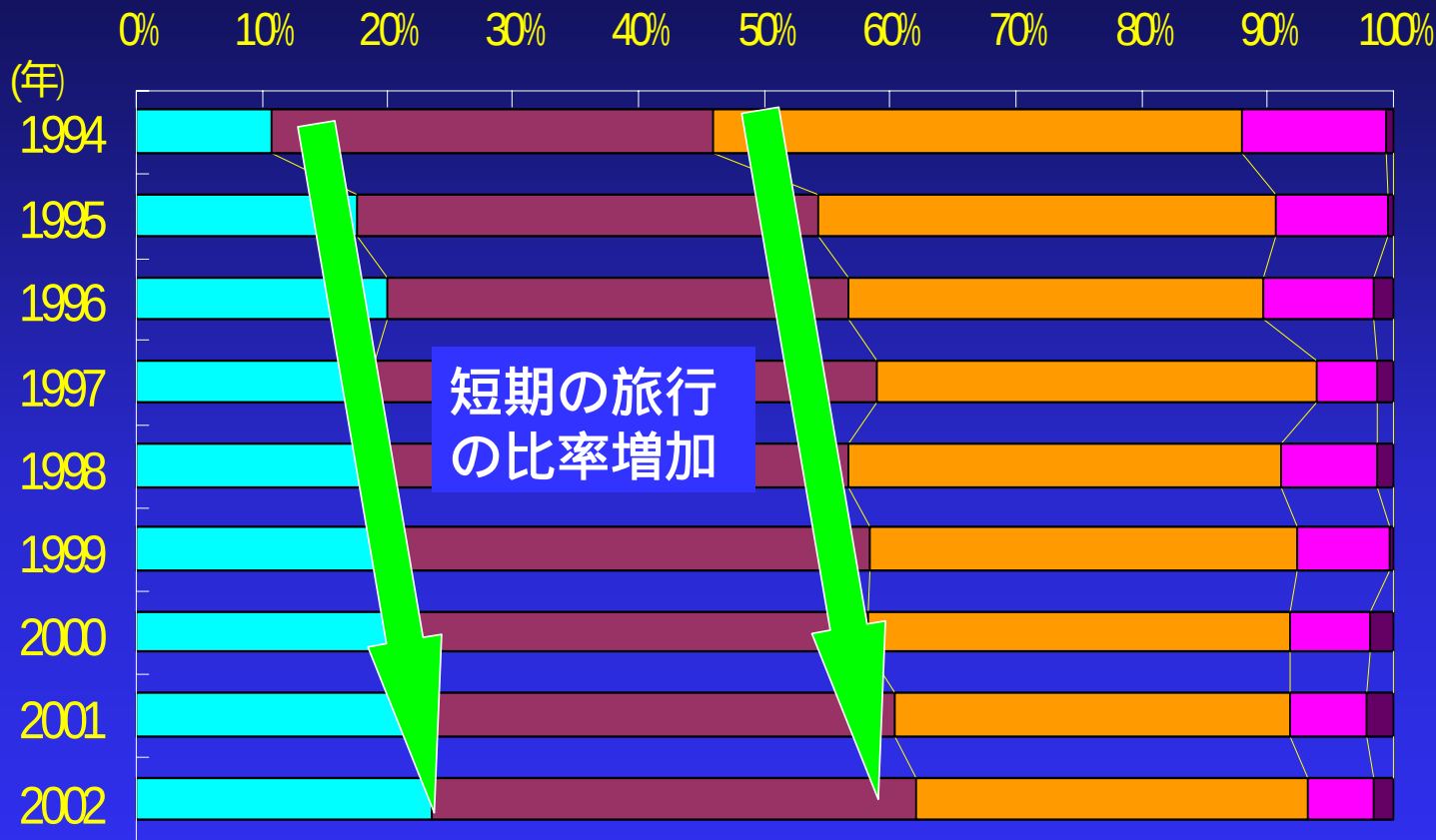
リピーターを増やせていない

日本人外国旅行の旅行日数の変化

「JTB REPORT」各年版等より作成

出発 →

■ 1～4日 ■ 5日～7日 ■ 8～14日 ■ 15日以上 ■ 無回答

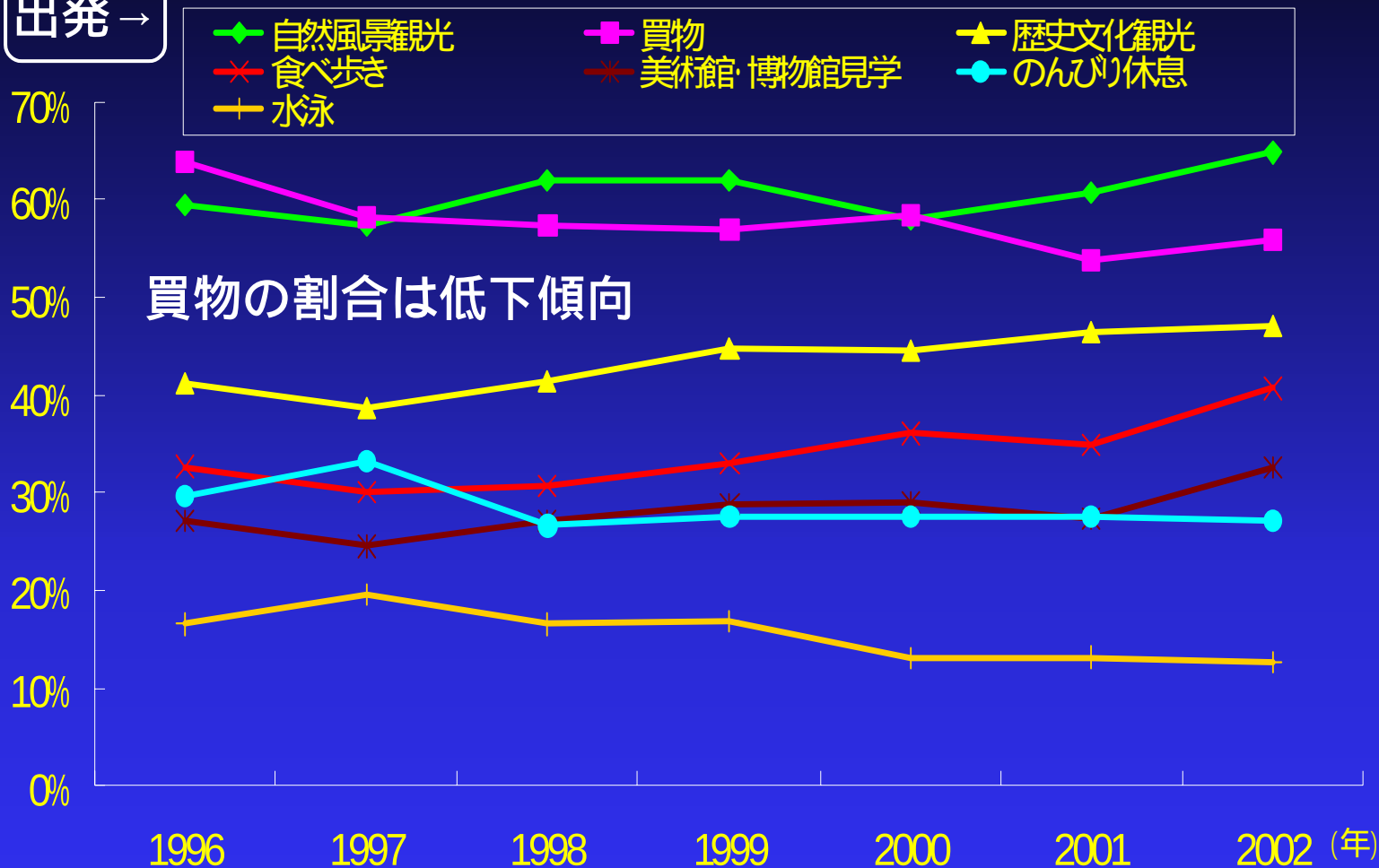


(C) Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

日本人の旅行先での行動の変化

「JTB REPORT」各年版等より作成

出発 →



(C) Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

日本人外国旅行の様相の変化

初海外旅行中心 → 何回も旅行する層中心

欧米 → 東アジア

長期旅行 → 短期旅行

買物、自然鑑賞 → 買物の低下、多様化

→ 目的地の選択、旅行内容の選択に大きな変化

→ 同様の現象がアジアで既に起こっているのか、これから起きるのかを把握することが極めて重要。

研究の目的及び発表内容

日本の国際観光をめぐる現状

同じ事が外国でも起こっている、今後起こるかもしれない。

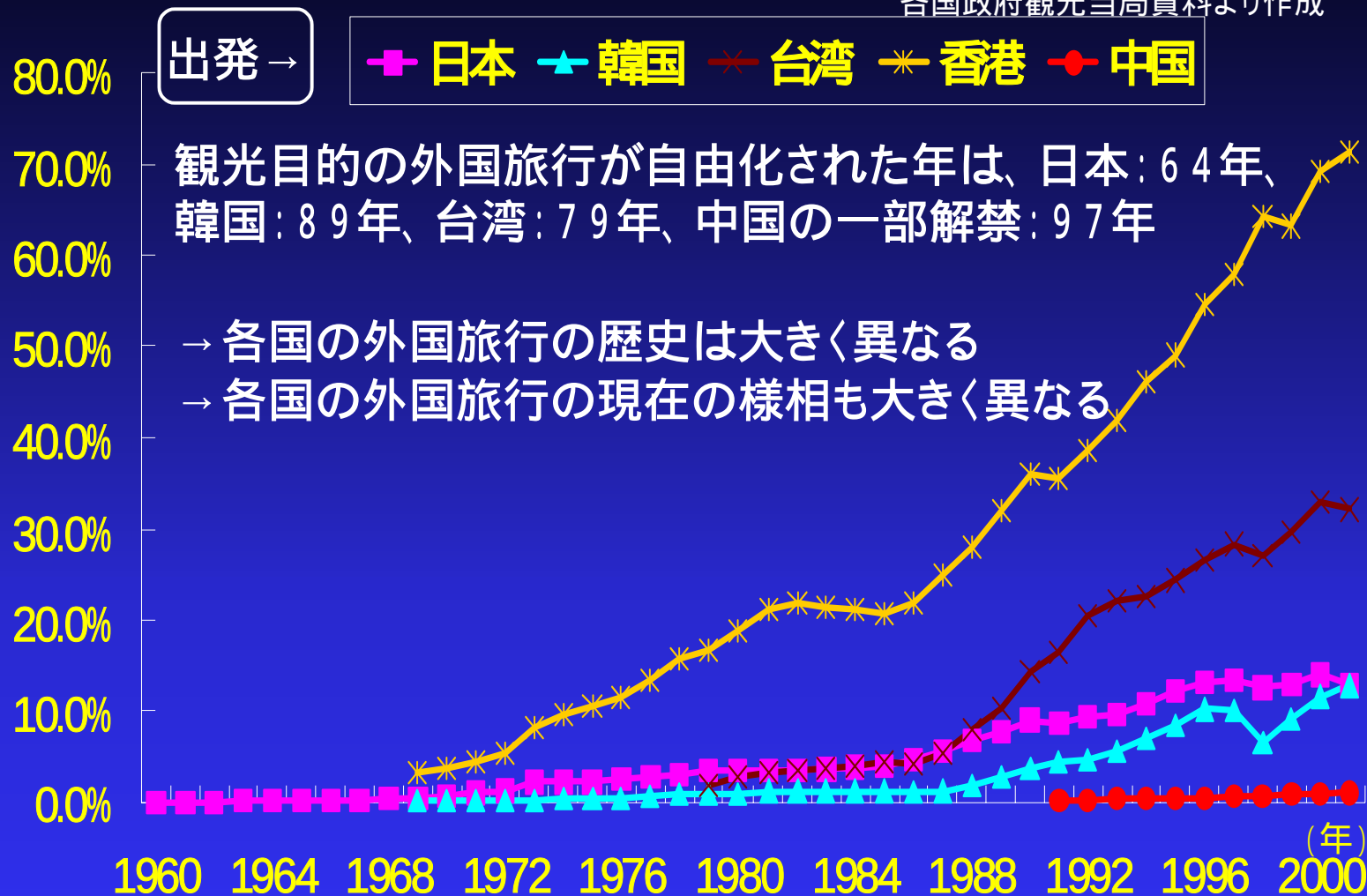
日本人の外国旅行の様相

「顧客」たる外国人の外国旅行の様相

訪日観光を阻害する要因

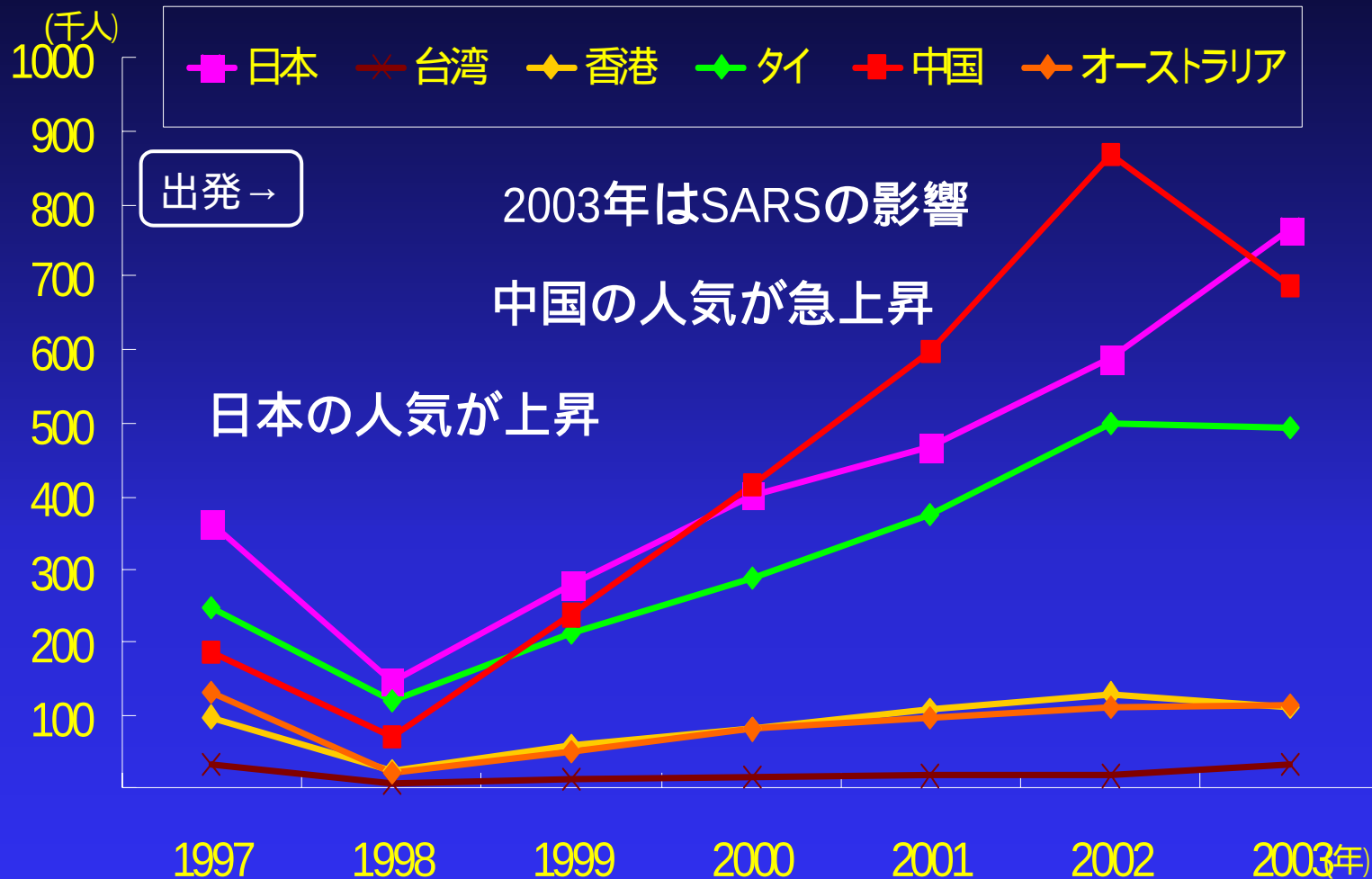
各国の出国率の推移

各国政府観光当局資料より作成



韓国発外国観光者数の推移(行き先別)

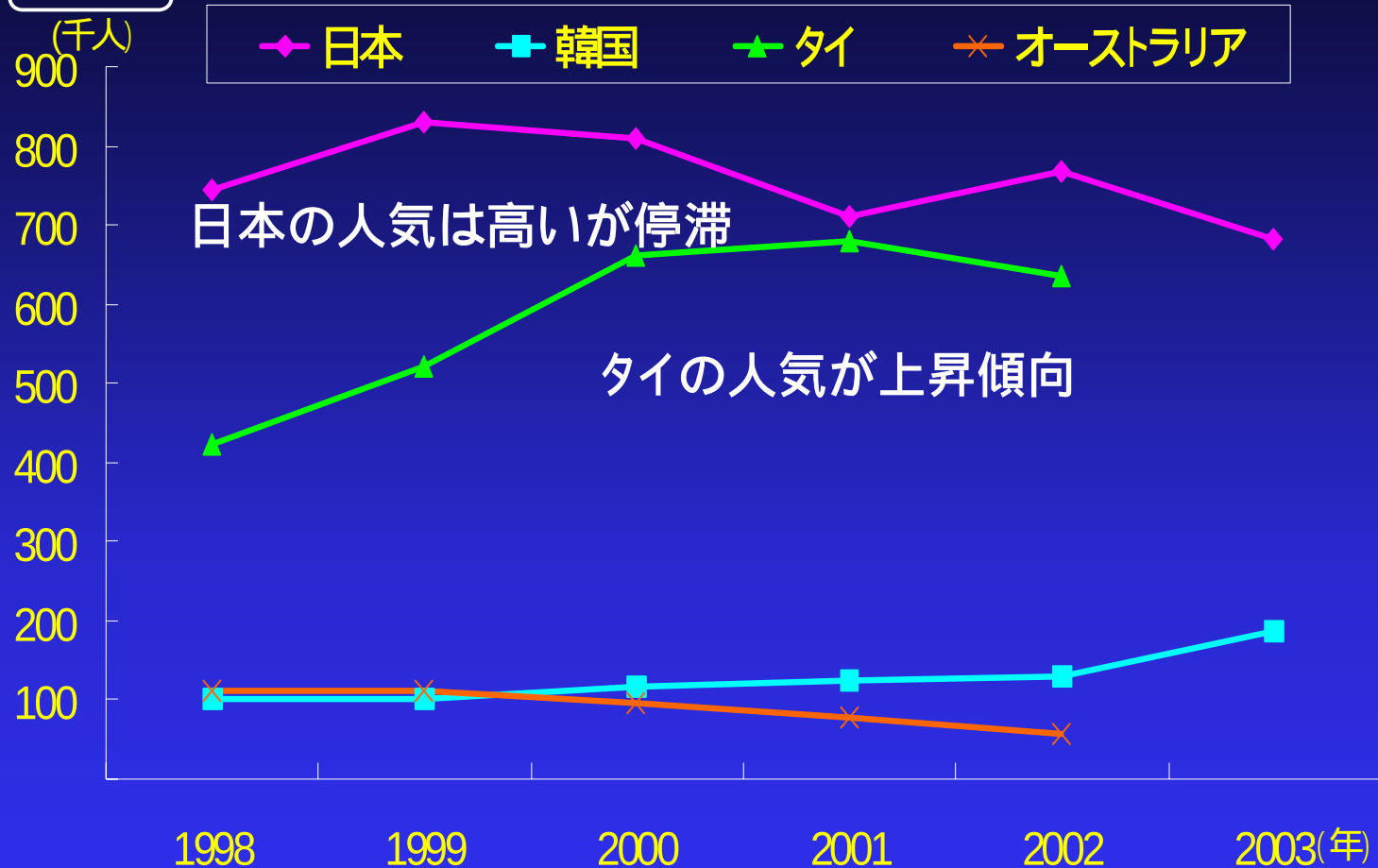
韓国観光公社資料より作成



台湾発外国観光者数の推移(行き先別)

出発 →

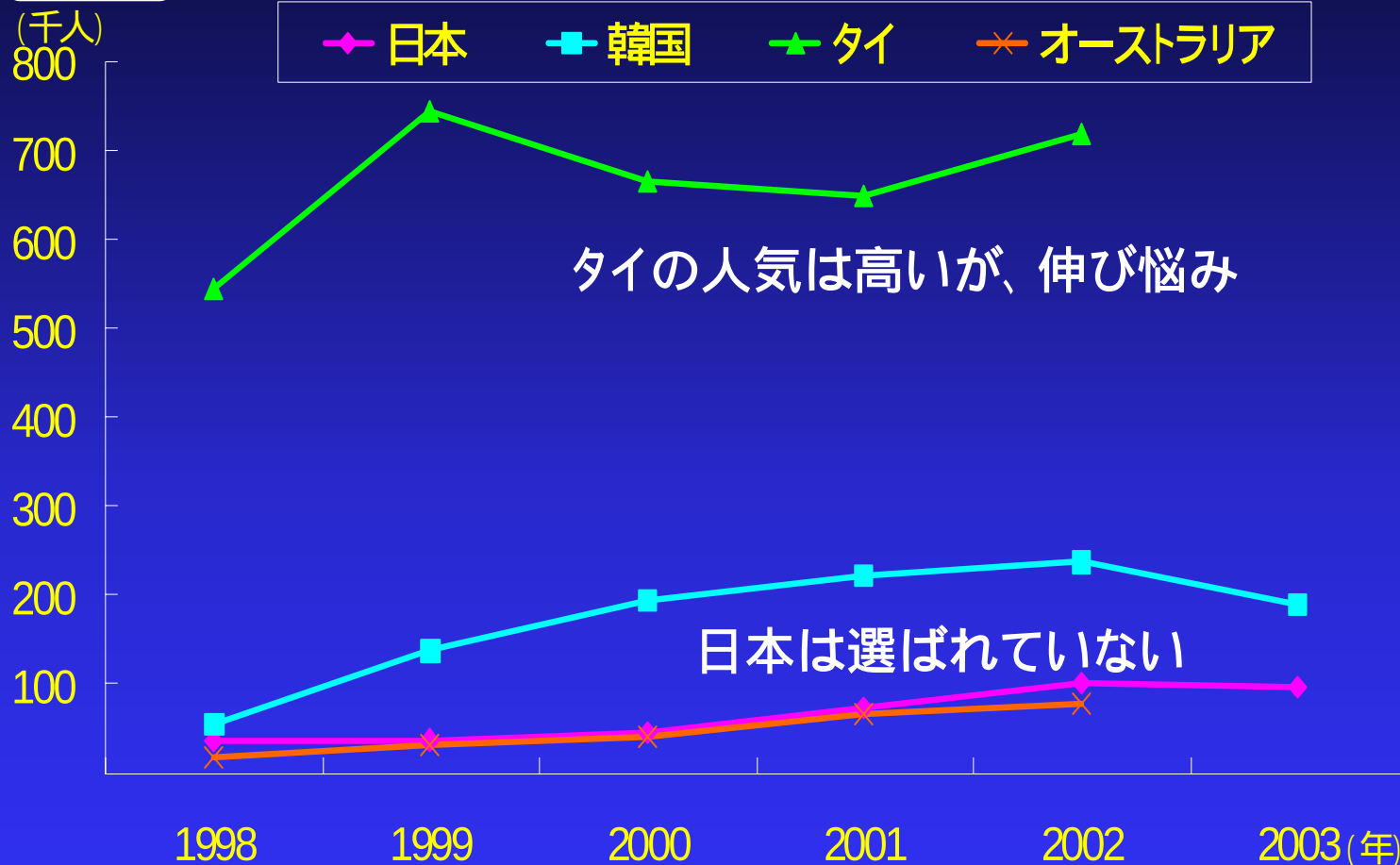
各国政府観光当局資料より作成



中国発外国観光者数の推移(行き先別)

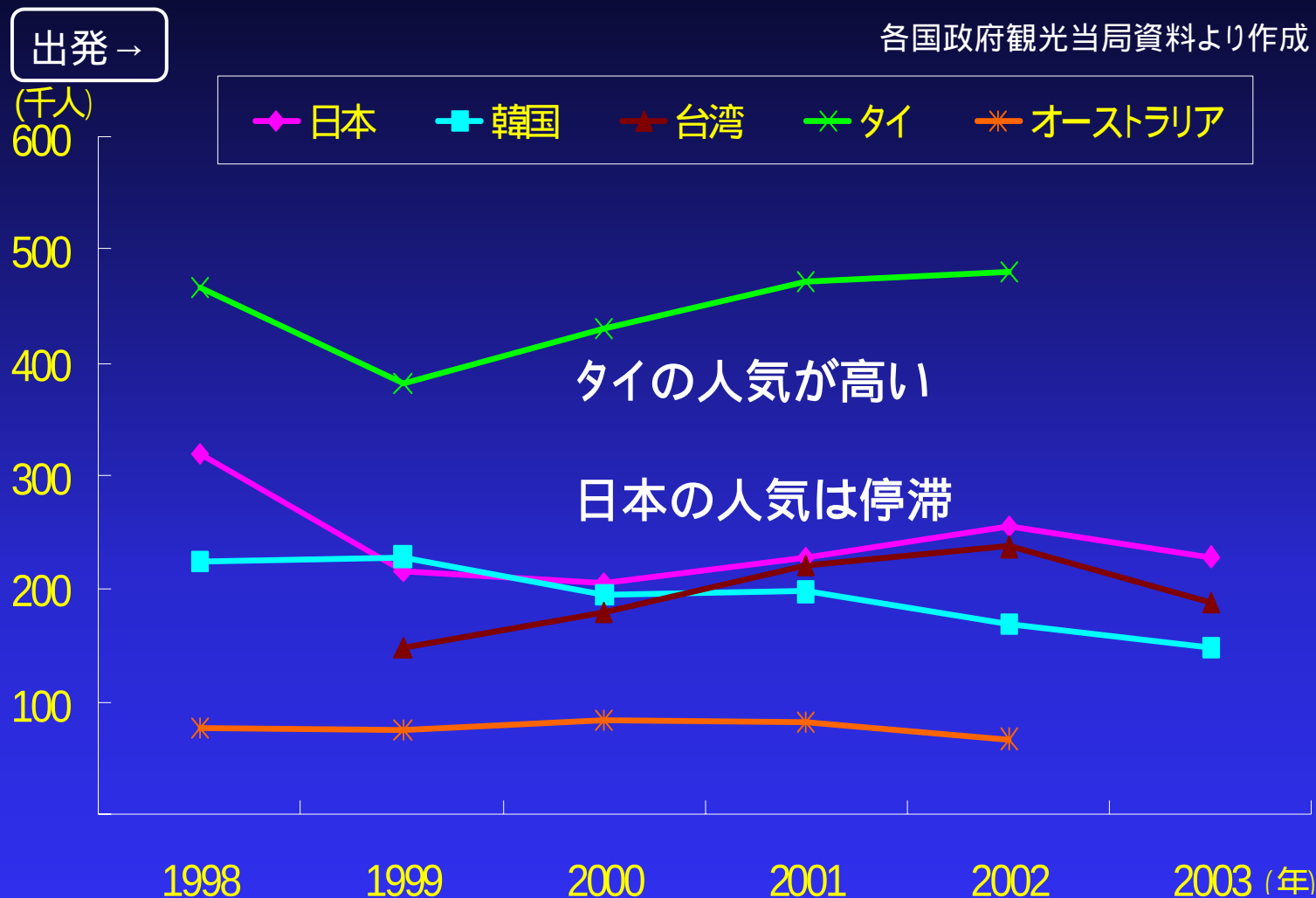
出発→

各国政府観光当局資料より作成



香港発外国観光者数の推移(行き先別)

各国政府観光当局資料より作成



(C) Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

訪日旅行者に占めるリピーターの割合

各国 → 日本

国際観光振興機構 (JNTO) 資料より作成
(調査期間 (年))

	1999-2000	2000-2001	2001-2002	2002-2003
韓国	77.2%	73.0%	70.5%	68.9%
台湾	62.9%	70.7%	70.5%	72.4%
香港	70.1%	76.6%	74.1%	78.2%
中国	46.2%	48.8%	48.7%	44.8%

韓国、台湾及び香港：割合は高い

(C) Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

訪日旅行者に占めるリピーターの割合

各国 → 日本

国際観光振興機構 (JNTO) 資料より作成
(調査期間 (年))

	1999-2000	2000-2001	2001-2002	2002-2003
韓国	77.2%	73.0%	70.5%	68.9%
台湾	62.9%	70.7%	70.5%	72.4%
香港	70.1%	76.6%	74.1%	78.2%
中国	46.2%	48.8%	48.7%	44.8%

韓国: 低下傾向 → 「第1回目の日本旅行者」増加

香港及び台湾: 増加傾向 → 「第1回目の日本旅行者」減少

→ 訪日全体数は変わらない → リピーターの獲得が不十分?

(C) Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

訪日外国人旅行者の滞在日数の推移

滞在

国際観光振興機構 (JNTO) 資料より作成
(年)

	1997	1998	1999	2000	2001	2002
韓国	5	6	5.4	5	5	5.4
台湾	5.4	5	4.6	5	5.4	5.3
香港	6.1	6	5.7	5.3	5.2	4.9
中国	20.9	21.7	21.4	21.4	20.4	17.6

香港: 微減傾向 6泊以上の旅行が減少

(日)

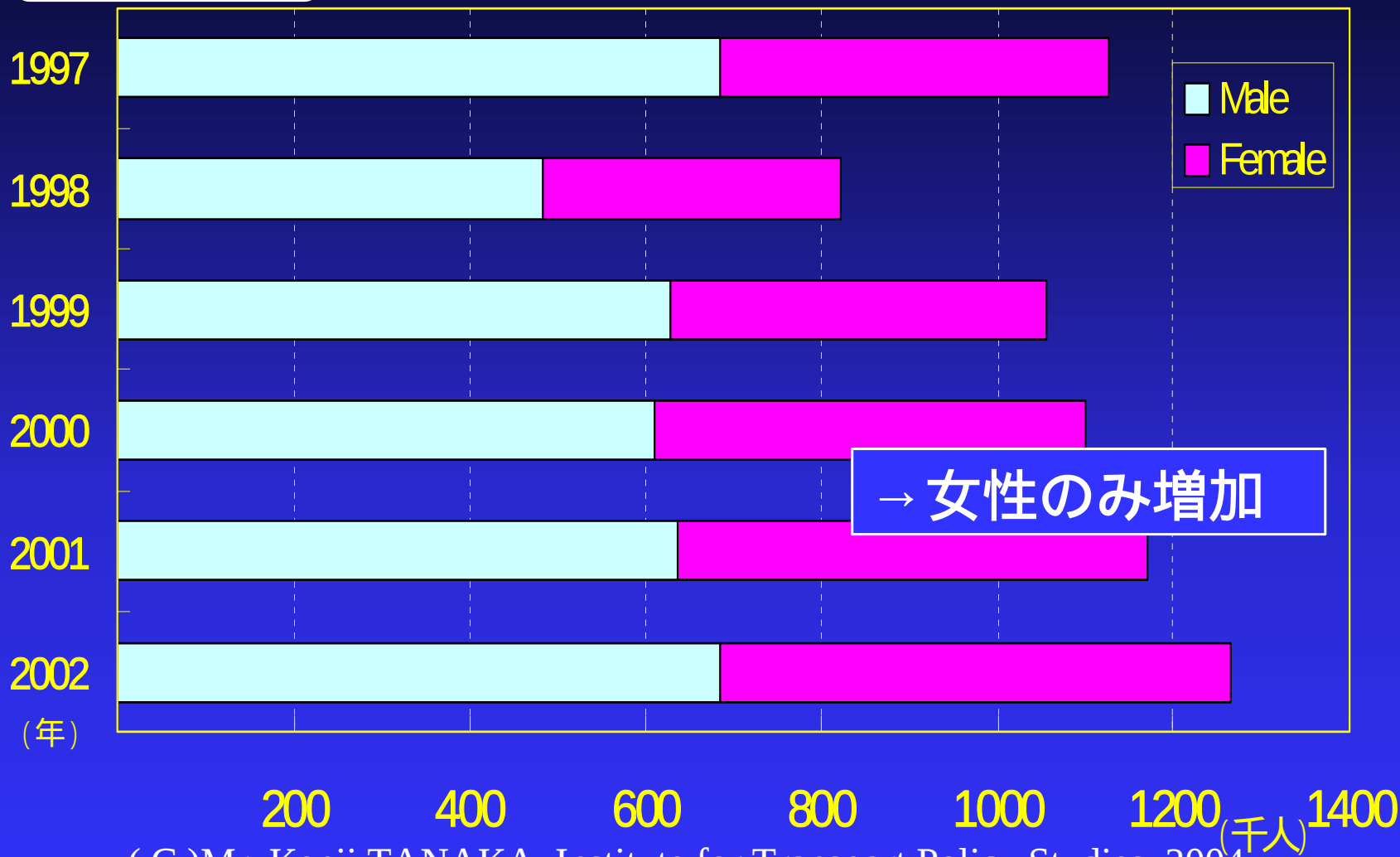
中国: 減少傾向 周遊型が多い

(C) Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

訪日韓国人旅行者の男女別内訳

韓国 → 日本

韓国観光公社資料より作成



(C)Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

研究の目的及び発表内容

日本の国際観光をめぐる現状

同じ事が外国でも起こっている、今後起こるかもしれない。

日本人の外国旅行の様相

「顧客」たる外国人の外国旅行の様相

訪日観光を阻害する要因

阻害要因として回答した割合(韓国、台湾、香港の住民アンケート)

国土交通省実施調査資料より作成

	韓国		台湾		香港		(%)
訪日	希望	非希望	希望	非希望	希望	非希望	
費用が高い	91.3	54.8	61.2	51.5	55.2	45.0	
言葉の心配	65.6	17.4	50.9	19.2	35.9	11.0	
時間がない	30.5	12.5	26.1	19.2	1.4	35.8	
関心がない		35.7		30.1		21.3	
訪問済み		21.2		24.8		22.6	

(C)Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

阻害要因として回答した割合(韓国、台湾、香港の住民アンケート)

国土交通省実施調査資料より作成

	韓国		台湾		香港		(%)
訪日	希望	非希望	希望	非希望	希望	非希望	
費用が高い	91.3	54.8	61.2	51.5	55.2	45.0	
言葉の心配	65.6	17.4	50.9	19.2	35.9	11.0	
時間がない	30.5	12.5	26.1	19.2	1.4	35.8	
関心がない		35.7		30.1		21.3	
訪問済み		21.2		24.8		22.6	

(C)Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

阻害要因として回答した割合(韓国、台湾、香港の住民アンケート)

国土交通省実施調査資料より作成

(%)

	韓国		台湾		香港	
訪日	希望	非希望	希望	非希望	希望	非希望
費用が高い	91.3	54.8	61.2	51.5	55.2	45.0
言葉の心配	65.6	17.4	50.9	19.2	35.9	11.0
時間がない	30.5	12.5	26.1	19.2	1.4	35.8
関心がない		35.7		30.1		21.3
訪問済み		21.2		24.8		22.6

(C)Mr. Kenji TANAKA, Institute for Transport Policy Studies, 2004

今回のまとめ

1. 我が国の現状の認識を改めることが必要。
2. 日本人の外国旅行の様相の変化と同様の変化が外国で起きている可能性がある。
3. 香港及び台湾市場において、日本はリピーターを獲得できていないかもしれない。
4. 日本が外国人観光客に「飽きられている」、「今後飽きられる」という問題を認識しなければならない。

詳細に調べて初めて分かることがある。
更なる調査・分析を進める

本日の発表は以上です。
ご静聴ありがとうございました。